

原 著

当科における非悪性膵疾患に対する尾側膵切除術 腹腔鏡手術と開腹手術の比較検討

森 隆太郎¹⁾, 谷 口 浩 一¹⁾, 松 山 隆 生¹⁾, 熊 本 宜 文¹⁾,
野 尻 和 典¹⁾, 武 田 和 永¹⁾, 上 田 倫 夫²⁾, 杉 田 光 隆²⁾,
田 中 邦 哉¹⁾, 秋 山 浩 利¹⁾, 遠 藤 格¹⁾

¹⁾ 横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科学,

²⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科

要 旨: 【目的】当科の(用手補助)腹腔鏡下尾側膵切除術の手技と短期成績を開腹尾側膵切除術と比較し, その妥当性と安全性を検討する。

【方法】当院で膵腫瘍に対し(用手補助)腹腔鏡下膵切除術を施行した10例を対象として, 手術成績を検討した。また, 現時点での手術適応は, 膵体尾部に局限した良性腫瘍あるいは系統的リンパ節増大を要さない良悪性境界病変とした。さらに, 適応疾患を同様にした開腹尾側膵切除術32例を対象とし, 周術期成績を比較し検討した。

【結果】2011年6月まで10例(HALS 5例, LADP 3例, LDP 2例)に施行した。原疾患は神経内分泌腫瘍(PNET) 2例, 嚢胞性膵腫瘍4例(膵管内乳頭粘液腫瘍2例, 粘液性嚢胞腫瘍1例, 漿液性嚢胞腫瘍1例), paraganglioma 1例, リンパ上皮性嚢胞1例, 仮性嚢胞1例, リンパ性嚢胞1例であった。平均手術時間295分, 平均出血量は329mlで, 開腹術の303分, 490mlと同等であった。切開創は平均7.2cm, GradeB以上の膵液瘻や術後出血などの重篤な合併症も認められなかった。また, 平均術後在院日数は10日で, 開腹術と比較して有意に短かかった($p < 0.005$)。

【結語】(用手補助)腹腔鏡下尾側膵切除術は, 安全に導入可能であった。手技の習熟と工夫により, 今後完全鏡視下への移行が可能と考えられた。

Key words: 腹腔鏡下尾側膵切除術 (laparoscopic distal pancreatectomy), 尾側膵切除術 (distal pancreatectomy), 膵腫瘍 (pancreatic tumor), 術後短期成績 (postoperative short term outcomes), 合併症 (complication)